

# 守山市民病院における

## 災害と地域医療 を考えるつどい

講演

『災害医療活動拠点と地域医療について』

加藤孝夫氏 (日本福祉大学 非常勤講師)

6月19日(日) 午後1:30~3:30

守山生涯学習センター

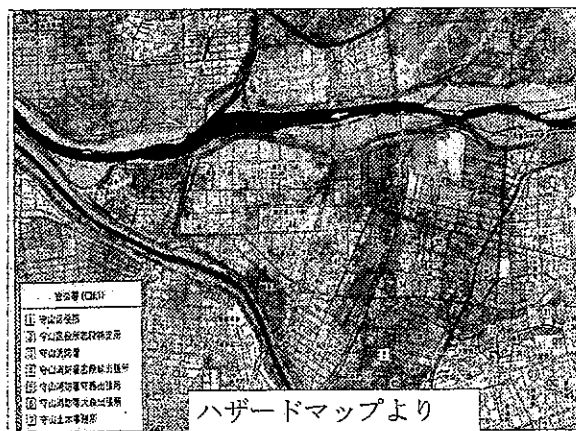
(守山区守山2-6 Tel791-7161)

3月11日の想像を超える地震による東日本大震災と、福島原発の事故は当地の人々に甚大な被害を及ぼしました。2ヶ月以上経った今、現地の人々は多くの国民の支援をうけながら復興に努めています。まだ進行中のことではありますが、私たちはこの出来事から多くの対策と教訓を引き出す必要があると思います。私たちの住む町守山区は、北と南を庄内川と矢田川に挟まれ、多くの地域は低平で、地震や洪水などの災害時の不安を抱えています。

守山市民病院はこれまで、区内唯一の総合病院として機能し、救急医療などを行ってきました。しかし、守山市民病院は、手術も行わず整形外科も休診日があるような状況に縮小してきています。分娩も取り扱っていません。こうして患者さんのニーズに応えられず、通院者も減ってくるなどにより、経営的にも赤字が増加をしています。それでも、「災害医療活動拠点」としては位置づけられました。

名古屋市立病院は城西病院が民間に売却され、緑市民病院が指定管理者制度化しましたが、「新市民病院改革プラン」に「守山市民病院は抜本的見直し」という政策が出されている現在、私たちは守山市民病院の存続・機能拡充を求める声を大にしなければなりません。

「災害医療活動拠点としての守山市民病院とは」「公的病院が担う地域医療とは」を考える場を設けました。多くの市民の参加を期待します。



主催

地域医療を考え守山市民病院を守る会  
(代表 中川 量幾 守山区翠松園2-1910 Tel793-6717)

守山革新懇  
名古屋市立病院職員労働組合